

# 新潟県防災キャンプ推進事業

## ～学校と地域が連携した防災教育の取組～



## 1. 事業の目的

国では、平成23年3月の東日本大震災を受け、各地域において想定される自然災害や被災時の対応等の理解、学校等を避難所とした生活体験などの「防災キャンプ」を実施することにより、防災教育の観点に立った青少年の体験活動を推進しています。

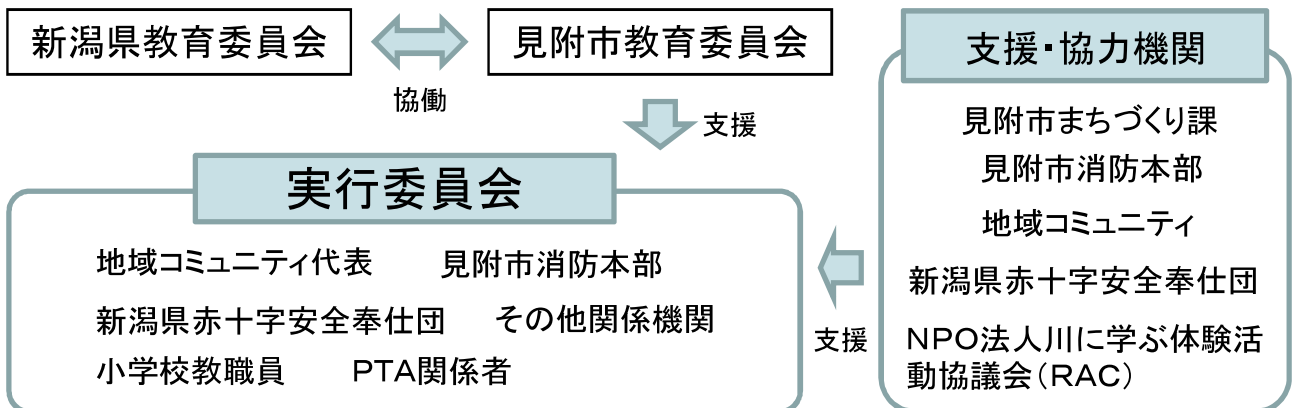
新潟県においては、度重なる地震や豪雨により大きな被害を受けています。市町村では災害対策ガイドブックや防災マップの作成、学校や地域コミュニティによる防災訓練等が行われていますが、これらを日常生活や災害時に生かすことや、災害時に学校と地域が連携して行動することが求められています。

この委託事業は、体験型の防災キャンプを実施し、その成果を県内市町村や学校等に広く周知することによって、学校と地域が連携した防災教育の実現を図ることを目的としています。

なお、今年度は、本県を含む14道府県・1政令市が委託を受けて実施されました。

## 2. 平成25年度 防災キャンプ推進事業スケジュール

2月下旬	公募開始
3月	企画提案書提出→採択団体の選定審査
4月	選定結果通知→事業計画書提出
5月～	防災キャンプ推進事業の実施 ・指導者との打合せ（7月上旬） ・現地下見、地域住民・関係機関との打合せ（7月中旬） 〔防災キャンプ（見附防災スクール）の実施〕 7月25日（木）～26日（金）見附市立今町小学校 8月22日（木）～23日（金）見附市立名木野小学校 ・「社会全体で子どもをはぐくむフォーラム」で活動紹介（11月） ・活動リーフレット作成、県内市町村、学校等へ配布（12月） 委託事業完了報告書提出



### 3. 活動報告

今年度は、見附市が前年度に実施した防災キャンプをモデルにして、2小学校区で防災キャンプ（見附防災スクール）を開催しました。見附市は、平成16年の7.13水害で大きな被害を受けました。そのときの体験を踏まえ、学校と地域・関係機関等が連携した防災教育を推進しています。

## 【見附防災スクールin今町】－防災教室in今町小学校－

今町小学校では、4年生を対象に実施しました。7・13水害で大きな被害を受けた今町地区ではどのように災害に備えているか、また災害が起きたときにどのような対応をとればよいかを考えるため、行政の方だけでなく保護者や地域住民の方々からも協力をいただきました。児童は、自然災害の現実と防災に対する意識を高めることができました。

### 1 ねらい

- 自然災害などから自分や家族、友達などの命を守るための主体的な判断力、行動力を身に付けよう。
- 豊かな体験活動をとおして、自主性や社会性を身に付けるとともに、地域の自然に親しみ、地域を知り、地域を愛する心を育もう。
- 友達や地域の方々、保護者と協力して活動することで、協調性や感謝と思いやりの心を育むとともに、みんなで協力して自然災害等に対応する力を身に付けよう。

2 期 日 平成25年7月25日(木)～26日(金) 1泊2日

3 会 場 見附市立今町小学校

### 〈プログラム〉

#### 1日目：7月25日(木)

8:20 ○ **開会式・ガイダンス**

9:15～13:20 ○ **みつけレスキュー（Eポート、ロープワーク体験等）**

大平森林公園にて救助用のEポート体験をしたり、ロープの使い方を学びました。いずれも、水害の救助に必要な道具です。体験にあたり、NPO法人「川に学ぶ体験活動協議会（RAC）」の方から指導していただきました。

・昼食…炊き込みおこわ

14:00～16:00 ○ **今町の防災について学ぶ**

7・13水害以降、今町地区では、どのようにして災害に備えているか、地域コミュニティの方からお話をいただきました。また、今町1～3丁目にある防災倉庫を実際に見学しました。

- 16:00～17:00 宿泊準備
- 17:00～18:00 絆づくりレクリエーション
- 18:00～19:00 ○ **ハザードマップで学ぶ**  
見附市役所の防災担当から、**見附市豪雨災害対応ガイドブック**(ハザードマップ)を利用して、浸水の想定、地域の避難所、逃げ時などを学びました。
- 19:00～20:30 ・夕食…保護者、地域住民の協力による炊き出し  
非常食体験
- 20:30～ ・健康観察 ・一日の振り返り
- 21:30 ・就寝(校内の教室にて)



大平森林公園でのEボートとロープワーク体験。Eボートは、8人ずつのグループで協力して漕ぎました。また、ロープワークを指導していただき、救助用ロープの作り方を学びました。

## 2日目: 7月26日(金)

- 6:00 起床、洗面、健康観察、掃除
- **地域散策**…地域の避難場所・避難経路を実際に歩きました。
- 7:30～8:00 ・朝食…缶詰パン、乾パン、缶詰、水など
- 9:00～10:30 ○ **みつけレスキュー(スローロープ、着衣泳体験)**  
体育館では、救助に使うスローロープの投げ方やつかまり方を教えていただきました。また、学校のプールでは服を身につけたまま水に入るときの身の守り方を、実際に体験して学びました。指導においては、見附市消防本部やRACの方からお世話になりました。
- 11:00～11:30 ○ 防災教室の振り返り、まとめ
- 11:30 ○ 閉会式



着衣泳の体験。「浮き続ける」ことが何より大切であることを学びました。

### 【参加者の感想】

あまり体力を使わない泳ぎ方や、おぼれたときの助け方、うまく助けられるやり方が分かりました。

## 【見附防災スクールin名木野】－かがやき学年防災スクール－

名木野小学校では5年生を対象に実施しました。7・13水害の時は1階が水没し、多くの児童・教職員が学校で寝泊まりしました。そのときの様子を地域の方々から聞き、災害の恐ろしさと助け合うことの大切さを知りました。また、学区内の遊水地や堤防を見学し、災害対策の様子を自分の目で確かめることにより、理解を深めました。

### 1 ねらい

- 自然災害から命を守るための判断力・行動力を身に付けよう。
- 体験活動を通して、自主性や社会性を身に付けるとともに、地域を知り、地域を愛する心を育もう。
- 友達や地域、保護者の方々と協力して活動することで、協調性や感謝と思いやりの心を育むとともに、みんなで協力して自然災害等に対応する力を身に付けよう。

2 期 日 平成25年8月22日(木)～23日(金) 1泊2日

3 会 場 見附市立名木野小学校

### 〈プログラム〉

#### 1日目: 8月22日(木)

- 13:30～14:30 ○ **開会式・ガイダンス**  
・北谷北部地区コミュニティ協議会会長のお話  
・ガイダンス  
7・13水害時の被害の状況、避難の様子などを、見附市消防本部や新潟県赤十字安全奉仕団の方からお話いただきました。
- 14:30～15:00 ○ **絆づくりレクリエーション**
- 15:00～17:00 ○ **遊水地見学**  
・事前学習（遊水地協議会会長）  
・遊水地見学  
全国的にも珍しい**越流堤と遊水地**を見学しました。水害時の様子、農家の方々の思いを遊水地協議会の方から聞き、遊水地の仕組みについて学びました。現地では、長岡地域整備局の方から詳しいお話を聞きました。
- 18:30～19:00 ・夕食…非常食体験
- 19:00～20:00 ○ **ハザードマップで学ぶ**  
見附市役所の防災担当から、**見附市豪雨災害対応ガイドブック**（ハザードマップ）を利用して、浸水の想定、地域の避難所、逃げ時などを学びました。
- 21:00～  
22:00 ・一日の振り返り、就寝準備、健康観察  
・就寝（校内の教室にて）



## 2日目: 8月23日(金)

6:00 起床、洗面、健康観察、掃除  
地域散策（学校周辺の堤防を見学）

8:00～8:30 ・朝食…非常食体験

9:00～10:30 ○ **みつけレスキュー（搬送体験、スローロープ体験）**

体育館では、見附市消防本部の方から、けが人や高齢者を搬送するときの様々な技術を教えていただきました。

学校のプールでは、ライフジャケットを身につけ、RACの方の指導によりスローロープを用いた救助体験を行いました。

12:00～13:00 ・昼食…保護者ボランティアの協力による炊き出し

13:00～13:45 ○ 防災スクールの振り返り、まとめ

13:45～ ○ 閉会式

14:15 ・保護者への引き渡し訓練



### 見附市豪雨災害対応ガイドブック

今回の防災キャンプでは、このガイドブックを活用しました。これは、刈谷田川、信濃川、猿橋川が決壊した場合の、見附市の浸水の特徴と土砂災害の危険地域を示したものです。住民が、このマップをもとに自主的に避難するタイミングを判断するために、7・13水害を契機に作成されました。

## ー防災キャンプに参加してー

### キャンプを通して学んだこと ～参加児童の声～

- ・学んだことは、洪水になったとき速く水が広がること、大量の水が一度におそってきて勢いが強いこと、倒れた木などが流されてくるので近づかないこと、早めに安全な場所に避難することです。
- ・水害はいつ起きるのかわからないので、一人のときに水害が起きても、防災スクールで学んだことを生かして自分の命を守りたいです。さらに、地震や水害のとき、搬送体験で学んだことを生かして、お年寄りの人を安全なところへ運んであげたりしたいです。また、スローロープ体験を教えてもらったので、そのことも忘れずにしたいです。
- ・遊水地見学では、刈谷田川の水があふれないように機械で町を守っていることを学びました。
- ・地域散策では、地域の危険なところが分かった。地域の避難所が分かりました。
- ・日ごろからできることは、非常食などを用意しておくことと、避難場所を確認することです。

(事後アンケートより)

### 参加した地域住民やボランティアの声

- ・子どもたちなりに、地域の防災について興味を持ち、子どもでもできることがあるのだということを知ってほしい。(今町地域コミュニティ協議会)
- ・洪水がどのように起こるのか、どうして危険なのか、洪水が起こると今町地域はどのようなことになるのかということを知りやすく伝えることができた。子どもたちがしっかり聞いてくれた。(見附市防災担当)
- ・(着衣泳では)「浮き続ける」ということが何より大切であることを理解し、自分の命を守ろうという意識を高めてほしい。(見附市消防本部)
- ・今回のような防災キャンプは、イベントのような一過性の行事ではなく、毎年4年生か5年生の児童に体験させるような仕組みにしていだければよいと思う。(RAC指導者)

防災キャンプを通じて子どもたちは、現地を見学したり災害救助等実際に携わっている人の話を聞いたり体験したりすることを通して、新たな問題に気づき、考えを深めることができました。また、地域の多くの人々と協力して実施することにより「地域の絆」をより深めることができました。

このように防災キャンプを通じて得られた成果は大きいですが、今後は一過性のイベントにならないようにしていくことが重要です。学校や行政の負担を軽減してプログラムを精選しながら継続的に実施していくことで、より深化した防災教育が可能となります。

地域の防災は地域で担うためにも、将来を担う子どもたちが住民の知恵や力を活用しながら継続的に学び、地域全体で防災教育を推進していくことが必要です。見附市の活動事例をもとに、県内各地における地域住民主体の防災教育が展開されることを期待します。

問い合わせ先

**新潟県教育庁生涯学習推進課** 〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1

**TEL 025-280-5617【直通】 FAX 025-284-9396**